

陸上運動部部便り

2005年9月号

一橋戦

目次

1	一橋戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	1
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	5
2	主務より	7
3	2005年度部内5傑 2005.9.3現在	8

1 一橋戦

1.1 監督の言葉

一橋戦 監督 八田 秀雄

一橋戦は9月3日上柚木競技場で行われました。日差しが強く、暑くなりました。この大会も最近気の抜けない接戦が多くなってしまいました。今年も最初は今ひとつで接戦でした。しかし中盤から地力の差が出ました。女子は津田塾も入れた3大学戦となって2回目。やはり途中まで接戦でしたが、最後までリードを保てました。記録的には、なんとといっても、尾崎6m98、武安6m84(追風参考)と1年二人が幅で好記録を出したのが目立ちました。来年は7m台4人が実現できるかもしれません。また新井が1500mで3分台に続いて、800mオープンでは1分56秒台で関東インカレB標準の自己新を出したのも光ります。この他女子で小原が400mに挑戦して61秒台など3種目1位。向田が1500mで独走し、リレーまで活躍するなどでした。全体としては、女子は塩入抜きでも勝てて、非常に順調。男子は上向きにはなってきました。

1.2 主将の言葉

主将 米田 武史

今回の一橋戦は、京大戦を見据えた2校対校としての重要な位置付けでありました。各自が京大戦を見据えたエントリーであり、京大戦を意識した内容でした。結果自体は14点差ということで無事勝利し、東大の連勝を伸ばすことができ、良い結果だったと思います。しかし、京大と戦うにはもう少し力が欲しいと思いました。残された時間で出来るだけの戦力を整え、当日はなんとか勝利を得ようと一同頑張りますので、今期はもう残り少ないですが最後までよろしく願いいたします。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 向田 恵

今年の一橋戦は9月3日に上柚木競技場にて行われました。3校対校になって2回目のこの大会は今年から新たに6点制となりました。しかし各大学女子部員数が少ないために一人で何種目も兼ねる選手が多く、非常に体力を消耗する試合となりました。東大も出場選手は3年生以下の5人のみで、優勝できるかどうか正直不安でしたが、蓋を開けてみればトラックは全種目で優勝し、2位の一橋に9点差を付けての圧勝でした。人数が少ないながらも選手一人ひとりがベストを尽くし、しっかりと自分の役割を果たしてくれた結果だと思えます。次はいよいよ京大戦です。京大には七大会で負けており、今年是非常に厳しい戦いになるでしょう。しかし、今回の一橋戦のように各人が自分の役割をきちんと果たすことができればきっと優勝できると思います。京大戦まで残りわずかしかありませんが、その時間を有効に使い、部員一同気持ちを一つにして頑張っていきたいと思えます。これからもよりいっそうのご声援をよろしく

お願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

10:00 男子 100m 決勝

2レーンに斉藤(1年)、4レーンに米田(4年)、6レーンに瀧山(3年)の出場。

2レーン斉藤は快調なスタートダッシュを見せるが20m付近から他の選手に差をつけられじわじわと後方に追いやられていく。中盤、終盤でも伸びはなく11"32の5位でゴール。

米田はスタートで先頭に立つも出遅れた感があり、いつものように加速できない。そのため、中盤以降も精彩に欠く走りとなって本来の伸びが全く見られず、最終的に一橋・瓦田に差されて11"04の2位でゴール。

6レーンの瀧山は好調なスタートを切る。しかし中盤を過ぎて後半になるとやや失速し3位以降の混戦の中で順位を落とし11"29の4位でゴール。このとき風は+1.2mであった。

4点制である一橋戦の短距離種目の中で勝ち越し当然と目された男子100mであったが、米田の2位により東大にしてみるとまさかの4点に終わった。

10:20 女子 100m 決勝

2レーンに倉員(1年)、5レーンに小原(3年)の出場。

倉員はスタートでタイミングが合わず他の選手からやや遅れてしまう。更に中盤からはズルズルと前方に引き離されてしまい14"63の5位でゴール。

スタートで好位置についた小原は快調に飛ばしていく。中盤でも加速し他をかわして先頭に躍り出る。その後も他の追従を寄せ付けず13"12の1位でゴール。このとき風はなかった。

東大、一橋、津田塾の6点制三校対校において着実な勝ち方を見せた。

10:40 男子 1500m 決勝

庄司(4年)、新井(3年)、割沢(3年)の出場。実力で勝る東大にとって落とせない種目である。スタートから一橋・富田が先頭に立ち、2番手に新井、3番手に庄司、最後尾に割沢がつく展開となる。レースはそのまま800mの通過まで動かなかったが、次第に疲れを見せ始めた一橋の2人を割沢がぬき4番手まで位置を上げ、2、3、4番手が東大勢で占められる。残り300mで新井が猛然とスパート。そのまま圧倒的なスピードを見せつけ、3'59"85で優勝。庄司もかなりペースを上げるものの2番手との差を縮めることはできず、4'04"63で3位。割沢は前との差を詰められたものの、踏ん張って4'08"20の4位であった。新井が優勝し、庄司・割沢が自己ベストを達成するなど、実りの多い結果となった。

11:00 女子 1500m 決勝

向田(3年)、清水(3年)の出場。出場選手の中では、向田が頭一つ抜けており、一橋、津田塾を得点で大きく離すことも期待できる種目である。向田はスタート直後から1人で飛び出すと、早くも100mで独走態勢となる。そのまま後ろとの差を少しずつ広げながらレースを運び、後続に20秒近い差をつける5'04"37で優勝した。タイムには不満が残るもののしっかりと仕事を果たした。一方、2位を狙う清水は、一橋の選手2人とともに2番手集団を形成し、その先頭で400mを"84で通過。しかし徐々に順位を落とし、ラストの250mでも後続のスパートにかわされ、5'34"38の4位に終わった。専門種目ではない中で、積極的にレースを作ったことが評価される。東大勢は合計9点を獲得したが、一橋も9点を獲得し、残念ながら勝ち越しはならなかった。

11:20 男子 110mH 決勝

2レーンに堀内(1年)、4レーンに梅沢(3年)、6レーンに尾崎(1年)の出場。

ハードル種目は今大会が初出場の堀内。順調なスタートを切るが、やはりハードル経験が少ないこともあってハードルを跳ぶごとに差

をつけられていく。5台目で膝をぶつけるとそれ以降はインターバルを5歩に切り替えて19"38の6位でゴールした。

まずまずのスタートを切った梅沢。ハードリングにもミスがなく1台目以降は尾崎と2人で一橋を圧倒する。尾崎には及ばなかったものの15"88の2位でゴール。

尾崎はスムーズにスタートを切り1台目を跳んで以降、後続を引き離して行き他を寄せ付けない強さを見せ15"17の1位でゴール。梅沢と見事1,2フィニッシュを見せた。このとき風はなかった。入部以来直線的な伸びを見せている尾崎は今回対校走幅跳でも優勝し、ハードルだけに止まらない可能性を見つけた恐るべき1年生である。100mで対校出場した斉藤と並んで、短距離を下級生から活性化させるこの2人には今後も期待したい。

11:40 男子 400m 決勝

2レーンに沖田(2年)、4レーンに田中裕貴(4年)、6レーンに今村(2年)の出場。

沖田は前半を抑えてはいるいつもの展開。第二曲走路に入ってから走りを切り替えてアウトレーンの選手を次々に追い越していきホームストレートで一橋・岡本を抜き2位となる。更にトップを走る一橋・広瀬を追うがこれには一步届かず51"03の2位でゴール。

田中は前半スピードに乗って他の選手を引っ張る素晴らしい展開を見せる。200mの通過後にややスピードは落ち、一橋の選手に並ばれるものの粘りの走りを見せるが残り50mで力尽き、今村にも抜かれて51"93の5位でゴール。

今村は1つ外レーンの一橋の選手をピタリとマークしてついて行くがバックストレートでインレーンの選手に追いつかれる苦しい展開。ホームストレートでは粘りを見せ田中を抜いて51"74の4位でゴールした。

着実に自分の仕事をこなせる沖田は現時点において名実共に短距離長種目のエースといえるだろう。関カレのマイル出場以降頭角を見せ始めた今村も今後が楽しみである。今月末までに更にスピードを伸ばし、水谷を筆頭と

する強豪揃いの京大を相手に一矢報いる走りを見たいものだ。

12:00 女子 400m 決勝

2レーンに向田(3年)、5レーンに小原(3年)の出場。

1500mで優勝した向田。スタートから前半はまずまずの走りでもアウトレーンの選手たちについていくが、中盤からのスピード変化に対応できずじわじわと差を広げられる。オープンペースで中距離選手としては決して悪くない走りであったが、スピードは足りず65"01の6位でゴール。2年ぶりに出場した400mで自己ベストを4秒更新した。

5レーンの小原。前半は各選手一線に進む無難な展開だがバックストレートに入ると徐々にスピードを上げ頭一つ抜け出したスピードを見せる。そのまま100mの選手とは思えない持久力で300m付近まで走りぬき、ホームストレートに入る付近でややスピードを鈍らせるも2位につけた津田塾の選手を振り切って2秒近い大差をつけて61"37の1位でゴール。走前の大方の予想を裏切る好走であった引退した塩入に代わって100mと400mで2冠を果たした小原。更に走幅跳でも2位、と必ずしも強さ=人数ではないことを証明する目ざましい活躍を見せてくれた。

13:20 男子 4 × 100mR 決勝

2レーンに1走田中啓太(2年)、2走瀧山(3年)、3走斉藤(1年)、4走米田(4年)の走順で出場。1走田中は快調にスタートを決め一橋と競り合いながらほとんど差のないまま2走瀧山にバトンをつなぐ。瀧山にバトンが渡る際に一橋がバトンパスに失敗する。渡った時点で大きな差をつけることに成功するも瀧山の伸びはいまひとつ。相手の2走が一橋の短距離エース瓦田であったこともあり、3走斉藤につなぐ時点では差がほとんどなくなる。斉藤は後ろから一橋の追撃を受け差を縮められるものの何とか順位を維持したままアンカーの米田にバトンを託す。米田はバトンをもらうと持ち前のスピードで一橋を引き離して43"10の1位で勝負を決めた。七大戦に

おける京都大学の4×100mリレーの結果が41"68であるということを見ると京大戦のリレー種目は苦しい戦いを強いられそうだが各選手コンディションを整えて是非とも京大を圧倒する結果を見せてもらいたい。

14:30 男子 5000m 決勝

宮崎(4年)、岡田(3年)、石原(2年)の出場で、30度を超える日差しの中でのスタートとなった。力のある一橋・富田が1500mを走った後であるため、誰も積極的に前に出ようとせず、最初一周は87"という超スローペースになった。600m過ぎから岡田が前に出てようやくペースを上げるも、1000mは3'22"、2000mは6'35"での通過となり、1000mで遅れた一橋・中上を除く5人の集団で淡々と周回を重ねた。3000m手前で石原が先頭に立つと一橋・竹石も離れて、4人の集団で残り1000mを13'05"で通過。さらに石原がペースを上げるとまず岡田、次に宮崎が少しずつ離され始める。しかし、ラストに備えていた富田が4400mで猛スパートをかけると、石原は反応できずに一気に差を付けられた。結局富田はラストの1000mを2'53"でカバーし、15'58"40で2位に10秒近い差をつけて圧勝。終盤粘った宮崎が16'08"25で2位に入り、故障明け間もない石原は16'13"91で3位、岡田は序盤の積極性空しく16'17"65で4位に終わった。長距離として勝ち越したものの、合宿の成果を出すことができず、3週間後の京大戦に向けてスピードへの移行が急務であることを示す結果となった。

尚、先立って行われた5000mOPにおいて、今年度慶応大学から新加入した小峰(M1)が、16'59"55で箱根駅伝予選会の標準記録(17'00")を突破し、大学院生チームで11人目の出場資格を得た。

15:20 女子 4×100mR 決勝

3レーンに小原(3年)、倉員(1年)、本間(2年)、向田(3年)の走順で出場。1走の小原はまずまずのスタートで、そのまま加速して津

田塾大学を突き放し、ほぼ一橋大学と同時で2走にバトンを渡す。2走の倉員もいい走りを見せるが、後半ややスピードに伸びが足りず、一橋に差をつけられる。3走の本間は差を広げられぬよう必死に粘りの走りを見せ、少し差を縮めて優勝をアンカーの向田に託した。バトンを受け取った向田は猛烈なスピードで一橋を追い上げ、20m近くあった差を一気にひっくり返し55"68の1位でゴール。僅差の勝利をもち取った。

15:40 男子 4×400mR 決勝

4レーンに今村(2年)、沖田(2年)、小澤(2年)、田中(4年)の走順で出場。1走の今村は序盤から最後までスピードの落ちることなく安定した走りを見せ、一橋とほぼ同時で2走にバトンを渡す。2走の沖田は終盤の粘りが持ち味だが、今回は序盤から飛ばして前に立った。中盤並走が続くが、終盤やはりいつもの粘りを見せ、かなりの差をつけて3走にバトンを渡す。3走の小澤もその流れに乗り、バトンを受け取ると切れのいい走り飛び出した。しかし200mを過ぎたあたりから疲れからか足の回転が悪くなり、一気に差をつめられる。それでも抜かれまいと必死の粘りを見せ、ほぼ同着で最後はアンカー勝負となった。4走の田中は、最初から相手の真後ろにつき、抜く機会をうかがいながら走り続けた。カーブを曲がってラスト100mとなったところで最後の力を振り絞って抜きにかかるが、相手の必死の粘りもあって一歩及ばず、3'23"93の2位でゴールした。

フィールド

10:00 男子 円盤跳 決勝

合田(3年)、庄司(2年)、関原(2年)の出場。

合田は終始34m中盤で安定した投擲を見せ、34m75で優勝。

庄司は一投目を左にファールするが、2投目に30m25を投げる。その後はファールなどで記録を伸ばせなかったものの、得点圏内の4位は確保した。

関原は最近この種目の練習を再開したばかりで、ターンに安定性を欠きファールを連発

する。しかし3投目以降は安定し3投目の28m72で5位となった。

11:20 男子 砲丸投 決勝

田上(3年)、庄司(2年)、小林(2年)の出場。

田上は1投目を無難にまとめ、2投目以降いろいろな投げを試しながら、さらに記録を伸ばしていき、4投目に9m49を投げ、4位となった。

庄司は練習不足だったためか、自分の実力を出し切れない。それでもなんとか記録を伸ばすが、9m46で5位に終わる。

小林は1投目から安定した投擲で記録を伸ばすが、思い切った投げができずに6投してしまい、5投目の10m63の記録で1位となった。

11:20 女子 砲丸投 決勝

本間(2年)、倉員(1年)の出場。1投目に本間は7m10、倉員は自己ベストを大きく更新する7m52を投げた。その後疲れが出てきたのか、2人とも6投目まで記録を伸ばすことはできなかったが、この記録で倉員が3位、本間が4位となり7点を獲得した。

13:00 男子 走幅跳 決勝

相川(3年)、尾崎(1年)、武安(1年)の出場。今回も追い風と向かい風が定まらない難しいコンディションでの試合となった。

相川は2本のファールの後6m68を跳ぶが、結局記録を残せたのはこの試技と6本目の試技だけで、実測では6m90付近まで跳んでいるだけに悔やまれる試合となった。

武安は1本目に6m84を跳んで勢いにのったかのように見えたが、1、2回目以降の試技はわずかに踏み切り板を出る試技が続き、記録を伸ばすことはできなかった。

尾崎は、多くの選手が苦戦する中、風を味方につけて好跳躍を見せてくれた。1本目で6m82を跳ぶと、5本目で6m95とさらに記録を伸ばす。最終跳躍ではこれを上回る6m98を跳び、走幅跳を制した。高校時代のベスト記録を大きく更新しており、今後の飛躍が期待される。

全体としては、1位が6m98の尾崎、2位が6m84の武安、3位が6m68の相川で、京大戦につながる結果を残すことができたのではないだろうか。

13:00 女子 走幅跳 決勝

小原(3年)、本間(2年)の出場。小原は3本目に4m46を跳んでトップに立つ。6本目、4m49を出した津田塾の選手に逆転されてしまい、小原も4m48と記録を伸ばしたが1cm差で届かなかった。しかし、2位で5点を獲得する活躍を見せた。本間はなかなか調子が出せないまま2本目の4m32から伸ばすことができず、結局4位に終わった。

13:30 男子 やり投 決勝

石井(4年)、田上(3年)、葉梨(1年)の出場。

石井は一橋戦の直前の東医体においてついに関カレB標準(48m00)を切り、のりにのっており、更なる自己新の期待がもたれたが、惜しくも自己ベストの更新をすることはできなかった。しかし、その投擲は安定しており、確実に45mを超える投擲で他を圧倒した。

田上は最後まで助走がうまく合わず、ファールを連発してしまい、本来の力を出し切りことができなかった。

葉梨は、3投目まで全く助走が合わずに、3投終わった時点では4位であったが、4投目以降OPで参加していた島田(M2)の助言もあり、何とか助走を修正し5投目には今季自己記録を更新した。結果としては石井が45m71で1位、葉梨が41m88で3位、田上が31m24で6位であった。

14:50 男子 走高跳 決勝

持永(3年)、木村(2年)、小福田(1年)の出場。

木村は1m50から試技を開始。1跳目でこの高さを成功するが、1m55ではうまく上に跳ぶことができず、3回とも失敗。結果、木村は1m50の6位であった。

小福田は1m60から試技を開始した。しかし1跳目、2跳目は助走がうまく合わず、失敗してしまう。3跳目は、バーに足がわずかに

触れたものの、何とか成功する。1m65は1跳目に失敗したものの、2跳目で成功する。1m70では、跳躍の高さは足りていたもののクリアランスがうまくいかず、3回とも失敗する。結果、小福田は1m65の4位であった。持永も1m60から試技を開始。非常に調子がよく1m70の自己記録までは1度の失敗もなく成功する。次は成功すれば自己ベストとなる1m75であったが、これも1跳目で成功する。このまま1m80も成功するかと思われたが、わずかの差で3回とも失敗してしまう。結果、持永は1m75の2位であった。

1.5 試合結果

第47回東京大学・一橋大学対校陸上競技大会
第2回東京大学・一橋大学・津田塾大学対校女子陸上競技大会

於 上柚木公園陸上競技場 (H17.9.3)

男子 100m 決勝 (+1.2)			
1	瓦田宗大	一橋大	11"01
2	米田武史	東京大	11"04
3	広瀬善規	一橋大	11"14
4	瀧山健	東京大	11"29
5	斉藤拓海	東京大	11"32
6	荒瀬仁志	一橋大	11"48

男子 400m 決勝			
1	広瀬善規	一橋大	50"19
2	沖田朋憲	東京大	51"03
3	岡本弦一郎	一橋大	51"35
4	今村岳	東京大	51"74
5	田中佑貴	東京大	51"93
6	服部康平	一橋大	53"35

男子 1500m 決勝			
1	新井邦生	東京大	3'59"85
2	富田哲朗	一橋大	4'04"63
3	庄司一郎	東京大	4'04"63
4	割沢高行	東京大	4'08"20

5	中上裕喜	一橋大	4'12"64
6	岡田航	一橋大	4'17"75

男子 5000m 決勝			
1	富田哲朗	一橋大	15'58"40
2	宮崎哲平	東京大	16'08"25
3	石原宏尚	東京大	16'13"91
4	岡田良平	東京大	16'17"65
5	竹石和人	一橋大	16'43"91
6	中上裕喜	一橋大	17'26"15

男子 110mH 決勝 (± 0.0)			
1	尾崎翔	東京大	15"17
2	梅沢啓	東京大	15"88
3	瓦田宗大	一橋大	16"57
4	福島健男	一橋大	18"34
5	堀内敦史	東京大	19"38

男子 4 × 100mR 決勝			
1	東京大	43"10	(田中-瀧山-斉藤-米田)
2	一橋大	43"70	

男子 4 × 400mR 決勝			
1	一橋大	3'23"44	
2	東京大	3'23"93	(今村-沖田-小澤-田中)

男子走幅跳決勝			
1	尾崎翔	東京大	6m98(+1.8)
2	武安光太郎	東京大	6m84(+4.0)
3	相川啓佑	東京大	6m68(+1.5)
4	石川順章	一橋大	6m22(-1.3)
5	瓦田宗大	一橋大	6m06(-1.3)
6	平山晃一	一橋大	5m97(-1.4)

男子走高跳決勝			
1	石川順章	一橋大	1m80
2	持永新	東京大	1m75
3	片桐久充	一橋大	1m75
4	小福田大輔	東京大	1m65
5	平山晃一	一橋大	1m65
6	木村剛	東京大	1m50

男子砲丸投決勝

1	小林宗隆	東京大	10m63
2	定成俊政	一橋大	9m99
3	武川晋也	一橋大	9m95
4	田上遼	東京大	9m49
5	庄司宇	東京大	9m46
6	石川順章	一橋大	8m79

男子円盤投決勝

1	合田隆彦	東京大	34m75
2	武川晋也	一橋大	32m89
3	定成俊政	一橋大	30m53
4	庄司宇	東京大	30m25
5	関原孝之	東京大	28m72
6	石川順章	一橋大	28m19

男子やり投決勝

1	石井仁也	東京大	45m71
2	岡田航	一橋大	43m43
3	葉梨輝	東京大	41m88
4	石川順章	一橋大	40m21
5	服部康平	一橋大	37m28
6	田上遼	東京大	31m24

男子トラック順位

1	東京大	34
2	一橋大	28

男子フィールド順位

1	東京大	31
2	一橋大	21

男子総合順位

1	東京大	65
2	一橋大	49

女子100m決勝(±0.0)

1	小原明恵	東京大	13"12
2	大高真梨子	津田塾大	13"41
3	上原藍	一橋大	13"63
4	揚玲美	一橋大	14"30
5	倉員麻奈実	東京大	14"63

6 田村菜莉子 津田塾大 15"08

女子400m決勝

1	小原明恵	東京大	61"37
2	大高真梨子	津田塾大	63"19
3	阿蘇品咲	一橋大	63"99
4	上原藍	一橋大	64"17
5	向田恵	東京大	65"61
6	一戸淳子	津田塾大	78"00

女子1500m決勝

1	向田恵	東京大	5'04"37
2	阿蘇品咲	一橋大	5'26"24
3	滝沢裕美	一橋大	5'27"06
4	清水里紗	東京大	5'34"38
5	大久保由貴	津田塾大	5'44"95
6	一戸淳子	津田塾大	6'26"14

女子4×100mR決勝

1	東京大	55"68
(小原-倉員-本間-向田)		
2	一橋大	55"70
3	津田塾大	56"29

女子走幅跳決勝

1	大高真梨子	津田塾大	4m49(-2.1)
2	小原明恵	東京大	4m48(+1.0)
3	山本彩花	津田塾大	4m43(+1.5)
4	本間諒子	東京大	4m32(±0.0)
5	上原藍	一橋大	4m23(+2.0)
6	阿蘇品咲	一橋大	4m18(±0.0)

女子砲丸投決勝

1	大高真梨子	津田塾大	7m76
2	阿蘇品咲	一橋大	7m66
3	倉員麻奈実	東京大	7m52
4	本間諒子	東京大	7m10
5	上原藍	一橋大	6m15
6	岸本みなみ	津田塾大	6m08

女子トラック順位

1	東京大	31
2	一橋大	27
3	津田塾大	17

女子フィールド順位		
1	津田塾大	17
2	東京大	15
3	一橋大	10

女子総合順位		
1	東京大	46
2	一橋大	37
3	津田塾大	34

2 主務より

一橋戦の応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々を卒業年順に敬称略でご紹介いたします。ご多忙のところ、誠にありがとうございました。

1994年 工藤麻衣子
 2001年 新妻拓弥
 2003年 相原佑康
 2003年 松林武生
 2003年 山崎智裕
 2004年 石井康雄
 2004年 岡本泰英
 2004年 鎌倉真音
 2004年 島田俊雄
 2004年 高見康裕
 2004年 田坂和彦
 2004年 松崎孝大
 2005年 高橋竜一
 2005年 南條靖
 2005年 藤田靖浩
 2005年 本多剛
 2005年 吉岡和夫
 (卒業年順、敬称略)

3 2005年度部内5傑 2005.9.3現在

男子 100m

1	米田 武史 (4年)	10"78(+1.7)	6.19
2	瀧山 健 (3年)	11"09(+1.8)	4.30
3	藤本 元太 (2年)	11"16(+1.3)	6.26
4	斉藤 拓海 (1年)	11"23(± 0.0)	7.30
5	相川 啓佑 (3年)	11"23(+1.4)	9.3

男子 200m

1	米田 武史 (4年)	22"10(-1.0)	6.19
2	瀧山 健 (3年)	22"5(+0.3)	4.3
3	今村 岳 (2年)	22"91(+1.0)	5.21
4	沖田 朋憲 (2年)	23"47(+0.9)	4.23

男子 400m

1	沖田 朋憲 (2年)	50"58	4.9
2	田中 佑貴 (4年)	51"41	5.21
3	今村 岳 (2年)	51"74	9.3
4	小澤 聡 (2年)	52"29	5.21

男子 800m

1	村井 昂志 (4年)	1'55"8	4.29
2	新井 邦生 (3年)	1'56"74	9.3
3	庄司 一郎 (4年)	1'56"98	7.31
4	割沢 高行 (3年)	1'59"94	4.9
5	黒澤 徹也 (3年)	2'00"77	6.19

男子 1500m

1	新井 邦生 (3年)	3'59"59	5.8
2	庄司 一郎 (4年)	4'04"63	9.3
3	斎藤 俊 (2年)	4'05"39	7.31
4	月崎 竜童 (2年)	4'07"34	5.21
5	割沢 高行 (3年)	4'08"20	9.3

男子 5000m

1	松本 翔 (2年)	15'16"47	7.31
2	石原 宏尚 (2年)	15'22"41	5.29
3	中原 健二 (4年)	15'23"8	4.23
4	村田 拓哉 (4年)	15'37"3	7.9
5	片岡 哲郎 (3年)	15'37"88	5.29

男子 110mH

1	尾崎 翔 (1年)	15"05(-1.0)	7.31
2	田中 啓 (5年)	15"40(+1.8)	7.31
3	梅沢 啓 (3年)	15"53(± 0.0)	5.21
4	堀内 敦史 (1年)	19"38(± 0.0)	9.3

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (3年)	56"92	6.19
2	坂田 裕輔 (3年)	61"04	5.21
3	平林 学 (2年)	61"13	7.10
4	門脇 啓太 (1年)	61"98	6.19

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (2年)	9'24"8	7.31
2	岡田 良平 (3年)	9'50"0	4.29
3	月崎 竜童 (2年)	9'56"5	5.28
4	山口 健介 (5年)	10'04"86	6.19
5	稲垣 誠 (4年)	10'20"77	6.19

男子 10000mW

1	深尾 宙彦 (3年)	52'26"54	5.8
2	菅野 雄大 (2年)	52'31"99	5.1
3	北沢 太郎 (1年)	54'19"72	6.19

男子 走幅跳

1	尾崎 翔 (1年)	6m98	9.3
2	竹内 昌男 (3年)	6m93	4.30
3	相川 啓佑 (3年)	6m89	5.21
4	武安 光太郎 (1年)	6m50	5.21

男子 三段跳

1	佐野 太郎 (3年)	14m31	4.9
2	倉員 智瑛 (2年)	13m87	4.9
3	武安 光太郎 (1年)	13m42	7.31
4	林 盛 (3年)	12m21	5.21

男子 走高跳

1	田中 啓 (5年)	1m90	6.19
1	持永 新 (3年)	1m75	9.3
2	小福田 大輔 (1年)	1m65	7.31
3	木村 剛 (2年)	1m55	6.19

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (1年)	4m00	6.19
2	持永 新 (3年)	3m70	4.23
3	木村 剛 (2年)	2m90	7.31

男子 砲丸投

1	小林 宗隆 (2年)	10m68	6.19
2	合田 隆彦 (3年)	10m57	7.31
3	持永 新 (3年)	10m37	4.29
4	庄司 宇 (2年)	10m17	4.2
5	関原 孝之 (2年)	9m99	4.2

男子 円盤投

1	合田 隆彦 (3年)	37m15	7.31
2	庄司 宇 (2年)	30m71	6.19
3	関原 孝之 (2年)	30m46	4.3
4	持永 新 (3年)	28m82	4.9
5	田上 遼 (3年)	27m72	7.31

男子 やり投

1	関原 孝之 (2年)	51m86	7.31
2	石井 仁也 (4年)	48m63	8.10
3	葉梨 輝 (1年)	41m88	9.3
4	田上 遼 (3年)	31m24	9.3

男子 ハンマー投

1	小林 宗隆 (2年)	24m29	7.31
2	合田 隆彦 (3年)	24m06	7.31

女子 100m

1	塩入 敦子 (5年)	12"91(+1.3)	7.31
2	小原 明恵 (3年)	13"02(+1.3)	7.31
3	堀越 彩香 (M2年)	13"58(+0.9)	7.30
4	倉員 麻奈実 (1年)	14"63(± 0.0)	9.3

女子 200m

1	小原 明恵 (3年)	27"51(+2.0)	6.19
2	堀越 彩香 (M2年)	28"27(+0.7)	6.19

女子 400m

1	塩入 敦子 (5年)	58"88	7.31
2	小原 明恵 (3年)	61"37	9.3
3	向田 恵 (3年)	65"01	9.3

女子 800m

1	目黒 亜由子 (M1年)	2'16"14	4.30
2	塩入 敦子 (5年)	2'21"33	7.31
3	向田 恵 (3年)	2'26"14	5.21
4	平野 茉来 (5年)	2'52"14	7.31

女子 1500m

1	向田 恵 (3年)	4'57"56	6.19
2	清水 理沙 (3年)	5'34"38	9.3

女子 3000m

1	向田 恵 (3年)	10'42"95	7.31
2	清水 理紗 (3年)	12'08"10	7.31

女子 400mH

1	塩入 敦子 (5年)	62"99	7.2
---	------------	-------	-----

女子 走高跳

1	倉員 真奈美 (1年)	1m35	7.31
2	本間 諒子 (2年)	1m25	7.31

女子 走幅跳

1	堀越 彩香 (M2年)	4m84(± 0.0)	7.30
2	本間 諒子 (2年)	4m72	5.21
3	小原 明恵 (3年)	4m70	7.31

女子 棒高跳

1	本間 諒子 (2年)	3m00	5.8
---	------------	------	-----

女子 砲丸投

1	倉員 真奈美 (1年)	7m52	9.3
2	本間 諒子 (2年)	7m23	7.31

文責：吉田和敬